

1. 自然共生サイトにおける生物多様性増進活動実施計画 概要と今後について

(日の出町谷戸沢廃棄物広域処分場)

1. 自然共生サイトにおける生物多様性増進活動実施計画の概要と今後①

【計画の目標】

最終処分場として適正な維持管理を行うとともに、動植物や生育生息環境の保全・創出を進め、「里山的自然環境」を再生し、一般市民が自然と触れ合い親しむことのできる場を確保する。

認められた4つの生物多様性の価値・目標

里地里山の生態系

里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【目標】

- 定期的な草刈りによってカヤネズミ、ホオジロが生息する草原を維持

生態系サービスの提供

生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【目標】

- 里山に特徴的な在来種の保護増殖
- 外来生物の防除
- 最終処分場に再生した自然と生き物に触れ、人の生活と自然環境保全の両立について考える機会の提供

希少な動植物の生息生育

希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【目標】

- 希少な植物種（絶滅危惧種等）の生育環境を維持し、保護増殖
- 良好な里山の指標種4種（トウキョウサンショウウオ、フクロウ、カヤネズミ、オオムラサキ）の生息環境を維持

動物の生活史に重要な場

越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【目標】

- 移動能力の低い種の障壁を除去し、産卵場などへの移動経路を確保
- 鳥類の巣箱を整備
- 閉鎖管理による動物が休息できる環境の維持

1. 自然共生サイトにおける生物多様性増進活動実施計画の概要と今後②

生物多様性の増進活動を継続することで、5年後の目標（価値の維持）を達成できる活動計画を作成

調査

1. 動植物調査

- 谷戸沢処分場に生育生息する動植物の状況を調査※

※生態モニタリング調査の継続

- ・ 植物
- ・ 昆虫
- ・ 両生類・爬虫類・哺乳類
- ・ 鳥類
- ・ 水生生物

保全

2. 生育・生息環境の整備

- 定期的な草刈り
- 外来種の防除
- 動物の移動経路確保
- 里山の植物や希少植物の保全
- 鳥類（フクロウ）巣箱の設置
- オオムラサキ越冬環境の整備
- トウキョウサンショウウオ産卵地整備
- カヤネズミ保全の草刈り区域設定

周知

3. 自然観察会、見学会、広報活動

- 一般市民（多摩地域）を対象としたオオムラサキに関するイベント
- 夏の草原を楽しめるイベント
- 秋の紅葉を楽しめるイベント
- 広報誌「たまエコニュース」の発行

本来の里山＝人の手が加わることで維持・利用されてきた環境

さらなる里山的自然の保全には、埋立地外の周辺樹林も含めた取組の強化が必要

周辺樹林を含めた里山づくり



処分場の周辺地域の生物多様性向上・維持

2. 指標種4種を軸とした保全計画

処分場内に動植物が暮らすことができる里山的自然環境を再生するために、これまでに施設の維持管理などにおいて、様々な取組を実施してきました。

その結果、谷戸沢処分場には多くの動植物が戻り、里山的自然環境の生態系を構成するようになりました。

これら多くの動植物の中から里山を代表する生き物であるオオムラサキ、カヤネズミ、トウキョウサンショウウオ、フクロウの4種を指標とし、保全を行っています。

2-1. オオムラサキが棲みつづける“里山づくり”

良好な里山の指標種 **オオムラサキ** が舞う
里山を目指します。

Step.1

エノキの保全、越冬準備の徹底

- ・エノキの生育状態の確認と定期的な点検・改善の実施
- ・越冬に必要なエノキ保護柵の整備、落ち葉の補給の継続

Step.2

ナラ枯れ調査、対策の実施

- ・令和7年度のナラ枯れ調査結果の分析および必要に応じたナラ枯れ状況の追跡調査の実施
- ・調査結果を基に枯損木の伐採やカシノナガキクイムシ対策としてのビニール被覆、駆除トラップを設置

Step.3

適切な除伐や萌芽更新による明るい森づくり

- ・老木や照葉樹を適切に管理することで、人の手が入った本来の明るい里山樹林を再現
- ・キンランなどのラン科植物をはじめとする下層植生の豊かなコナラ林にオオムラサキが生息する環境を整備

主な向上価値

- ・里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場
- ・希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場
- ・越冬、休息、繁殖、採餌、移動(渡り)など、動物の生活史にとって重要な場



2-2. フクロウが棲みつづける“豊かな森づくり”

里山生態系のアンブレラ種 **フクロウ** が
毎年子育てをする豊かな森を目指します。

Step.1

フクロウの生活を支える水辺の保全

- ・両生類の狩場や水飲み場として不可欠な水辺を維持管理
- ・アライグマ駆除によるモリアオガエルやトウキョウサンショウウオの繁殖地の保全が、フクロウの保全にも作用

Step.2

谷戸沢のフクロウの生態調査

- ・フクロウの食性等を大学等と共同でカメラ撮影やペリット分析で調査
- ・判明した餌の種類や採餌場所を基に、餌資源の保全策や方針を検討

Step.3

シカの防除による森林の保全

- ・糞塊調査やカメラ調査により、管理区域および周辺樹林のシカの生息状況を把握
- ・シカによる樹木や下層植生の食害対策として、防護柵を設置することで、餌資源が豊富で健全な森林環境を維持、動植物の保全に貢献

主な向上価値

- ・里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場
- ・希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場
- ・越冬、休息、繁殖、採餌、移動(渡り)など、動物の生活史にとって重要な場



2-3. カヤネズミが棲みつづける“草地づくり”

良好な草地の指標種 **カヤネズミ** が暮らす
美しいススキ群落を目指します。

Step.1

ススキの生育を妨げる“クズ”と“アレチウリ”の駆除

- ・ススキ草地維持のため、在来種のクズは低密度管理、特定外来生物アレチウリは発見次第駆除による根絶を目指す
- ・茎の刈取りでは効果が低いため、抜根や専用駆除剤を使用し、効率的かつ効果的な手法を検討

Step.2

ススキ草地の刈残しエリアの設定、草刈り順序の工夫

- ・球巣調査の結果を基に移動経路を考慮した適切な刈残しエリアを設定
- ・刈残しエリアはカヤネズミの行動圏とされる約400㎡を最低限確保

Step.3

刈残しエリアのカヤネズミ生息状況のモニタリング

- ・刈残しエリアでの調査による個体数や移動距離の推定
- ・推定結果を基に各埋立区域ごとの適切な草刈り方法等を検討

主な向上価値

- ・里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場
- ・希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場
- ・越冬、休息、繁殖、採餌、移動(渡り)など、動物の生活史にとって重要な場



2-4. トウキョウサンショウウオが棲みつづける“水辺づくり”

良好な水域の指標種 **トウキョウサンショウウオ** が
安定して繁殖する水辺を目指します。

Step.1

繁殖地のモニタリングの継続

- ・希少種および日の出町の天然記念物を調査・保全することによる地域の方々とのコミュニケーションや生物多様性に貢献

Step.2

水環境のモニタリングの実施

- ・産卵地における流量、水温、水質などを測定しモニタリング
- ・水環境に変化が生じた際に、エスケープゾーンの設置や安全地への移動などの早期対応が可能

Step.3

捕食者“アライグマ”対策の継続と効果の見える化

- ・特定外来生物アライグマの効果的な駆除を継続
- ・駆除した個体の情報や頭数を基に、駆除の効果を見える化

主な向上価値

- ・里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場
- ・希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場
- ・越冬、休息、繁殖、採餌、移動(渡り)など、動物の生活史にとって重要な場

